

☆☆☆良いこといっぱい！楽しいこといっぱい！子どもたちの笑顔がいっぱい！☆☆☆
実際に教員やボランティアとしてお手伝いいただいている方々の感想です。

担任／担任外教員

K・O先生 小学校免許がなくても、幼稚園免許でも働けます。EP保持者の場合、平日の勤務先の承諾があれば、平日の仕事とも掛け持ちができます。

H・N先生 毎時間内容が盛り沢山の授業を子どもたちが必死にがんばって受けている姿を見ることができます。学年によって授業中の雰囲気や子どもたちの姿勢がさまざま、家庭でどのようなフォローが必要か、保護者として考えるきっかけができました。



ボランティア補助教員

C・H先生 子どもたちの頑張っている姿を見られること、それがボランティア補助をしていて一番楽しいことです。

私は低学年を担当していますが、子どもたちが字を正しく丁寧に書けるようサポートしたり、授業についていけるように声掛けしたりして、子どもたちの成長を見守っています。子どもたちは本当にかわいくて、みんなの笑顔にいつも癒やされています。

国語の授業を連続3時間受けるのは、子どもにとっては大変なことだと思います。3時間目になると疲れてきてしまう子もいます。そのような時、担任の先生が授業を円滑に進められるよう、子どもたちの気持ちを授業に引き戻してあげるのも補助教員の腕の見せ所です。

ボランティア補助教員は原則月2回以上の勤務となっていますが、2回とは言わず自分の子どもが補習校に行く日は全て勤務したいほど楽しく仕事をさせて頂いています。とてもやり甲斐のある仕事です。

また、桜餅やお月見団子などのお菓子も頂けるので、子どもたちと一緒に私も楽しみにしています。ご存知ない方も多いと思いますが、交通費の補助があることも嬉しいです。

H・N先生 初めは不安もありましたが、先生方や先輩のボランティアの方が丁寧にやり方を教えてくださるので、安心して始められました。また、子どもたちの笑顔を見られることが何より嬉しく、やりがいを感じられます。

M・I先生 4年生の娘を補習校に連れて行った後、どのように過ごそうかと考えていたところ、ボランティア補助教員のことを知り、すぐに参加しようと決めました。5歳の息子はその間、お父さんと機嫌よく過ごしています。

私は2年生の教室に入っています。楽しいことは、漢字ドリルの丸付けをする時に、はねるところ、くっつけるところなど、みんなの努力を感じる時です。また、私も子どもたちと一緒に先生の話を楽しく聞いています。

Y・Y先生 ボランティア補助教員としてのお手伝いをして良かったこと

- *頑張っている子どもたち（どの学年に行ってもみんな頑張っています）を応援出来ること
- *頑張っている子どもたちの背中に、補習校に子どもを通わせる親として、励まされること
- *先生方のご尽力を目の当たりにして、ますます感謝の気持ちが強まること
- *授業を聞き、宿題をチェックしていると、家庭学習の大切さがわかること（家庭学習のポイント、みたいなことも自然に見えてきます）
- *子どもたちが可愛くて、一緒にいるのが楽しいこと

R・L先生 卒業式の練習があった日の帰り道、車内で子どもたちが突然「君が代」をふざけながら歌いしました。その時、一緒に笑えることができたのは、補習校で何をしてきたかを私も知っていた

からでした。運動会の練習があった日には、ステージの上でラジオ体操の見本を見せてくれる先生の話や、「体操の腕のポーズは面白いよね」などと、親子3人でラジオ体操の話で盛り上がりました。

気がつけば、補習校は日本語で国語を学習するためだけの場所ではなく、年齢も性別も違う2人の子どもと私が一丸となって、同じ時間を過ごし、同じ経験が出来る場所にもなっていたのです。親子3人で通い続けてきたことが、今となっては補習校を長く頑張ってきた我が家の秘訣にもなっています。

図書ボランティア

M・A先生 長男が1年生の時、副学級委員と並行して図書のボランティアを始めました。きっかけは友人が誘ってくれたからです。元々自分自身が本を読むことが好きですし、子どもたちにも毎晩読み聞かせをしていたので、もっとたくさんの本にふれあえる良い機会だと喜んで引き受けました。同じような環境にいる子どもたちの中で年齢別にどんな本が人気で、どういう内容の本に興味があるのかを知り、それを通して自分の息子たちともいろんなジャンルの本の話ができるようになりました。さらに、多くの子どもたちとお話ができることも私の楽しみの一つです。本の話だけでなく、補習校のことやメイン校のお話、また、新しい本に挑戦していく子どもたちを見るのはとても感慨深いです。



業務としては貸し出し以外に、整理、補修、管理などがあります。インター校、ローカル校、それぞれ休みが異なりますので、調節をしてきちんとお休みも取れます。特に作業が多い日は、家に帰るとぐったりですが(笑)、子どもたちが楽しく補習校に通い、また図書室に来ることも楽しみにしている様子を見ると、図書のボランティア活動に携わることが出来て本当に良かったと感じます。

M・M先生 図書ボランティアをしているの感想や良かったこと

- 子どもたちが毎週何冊も本を借りていくのを見て、頑張っているな、凄いなと感心します。
- 我が子と同じ学年の子どもたちが借りていく本を参考に面白そうな本を娘に勧めています。
- 日頃お付き合い出来ない年上のお子様を持つお母様方との情報交換は大変貴重です。

U・M先生 図書ボランティアをしている良かったこと

1. 保護者、子ども共々学年を超えた繋がりができたこと。
子どもには、「最近どんな本を読んでいるの?」、「日本語の勉強はどう?」などと他の保護者の方(図書ボランティアの方)からも声をかけて頂いたことで、親からとは違う「励まし」を頂きました。本人のモチベーション維持にも繋がったように思います。
2. 校長先生、諸先生方、事務の方々をはじめ、多くの方々のおかげで学んでいることを知ることが出来ました。有難いことにシンガポールは日本語の学習環境に恵まれているので、つつい当たり前のようには考えがちですが…。学校全体で日々、「補習校をより良くしていこう」とされていらっしゃる姿に改めて感謝しています。
3. 図書の本(蔵書)が精査されていること
多くの方々の手間を通じて図書の本が管理されていることを知ることが出来ました。JSSの児童生徒さんたちは恵まれた環境で日本語が学べて本当に幸せだと思います。



M・H先生 図書ボランティアをしている良かったこと

- お手伝いをすることで、子どもの学校の様子がわかったこと
- ローカル、国際校のお母さんたちと情報交換、相談ができたこと
- 親子で本好きになったこと
- お手伝いは、毎週ではないので他の予定も入れて調整できること

図書のお手伝いに限らず、親御さんが学校のお手伝いに積極的に参加することは、日本語を勉強することの大切さ、難しさ、楽しさを親子で享受するいい機会です。